

企業名： 株式会社ゴールドウイン

レポート名： 統合報告書 2022

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

会長や社長らのメッセージを見るとゴールドウインは成長の持続可能性を一番に重視しているという印象を受けた。特に事業と環境の二つのサステナビリティという言葉が統合報告書内に頻出していたが、それについては「PLAY EARTH 2030」という形で説明が行われていた。長期ビジョンのページでは事業におけるサステナビリティ、環境におけるサステナビリティを実現するための具体的な方向性および「PLAY EARTH 2030」の具体的な活動方針が説明されており、中期経営計画のページでは「PLAY EARTH 2030」1年目の成果が6年目までの目標と数値で比較されており、「PLAY EARTH 2030」の進捗状況と目標設定が明確にされていた。

以上からゴールドウインの目指す持続可能な成長が指す内容は十分に理解できる統合報告書であったといえる。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

会長メッセージや財務戦略のページを見ると、ゴールドウインは各店舗の立地に合わせた品ぞろえの個性化を追求したことで顧客のニーズを満たし、より効率的に商品売り切ることができるようになったことや発注量の抑制によって実現された低い販売ロス率を一番の強みとしていることが理解できた。

また価値創造プロセスのページでは、ゴールドウインのビジネスモデルにおいて「スポーツのものづくりのプラットフォーム」と「ブランド価値訴求システム」の2つが製品の質の向上と顧客満足を実現させるにあたり中心となっていることが分かったが、その中身については外観が説明されるのみで詳しい内容はあまり把握できなかった。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

財務戦略のページを見ると、ゴールドウインは低い販売ロス率を実現している「在庫流動の徹底」を収益強化につながる重要テーマとみなし、今後もさらに良化できるよう努めていくとともに定期的なチェックで悪化の兆しがないかを点検し、兆候が見られた場合には速やかに対処を行うと述べられていた。

また、ビジネスモデルの一つの柱である「スポーツのものづくりのプラットフォーム」に関してはその継承を主たる目的としているため、システムの安定性が認められると感じた。

以上から、ゴールドウインの競争優位性には持続性があると理解できる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

ゴールドウインは創業者の言葉である「俺がやらずにだれがやる」、「見えないものにこそ真実の価値がある」を会社の基盤とし、その意識は社員の間でも共有されている。そのため、ゴール

ドウインでは自分で判断し、行動する能力や常に事象の裏にある本質的な事柄を見抜こうとする姿勢を持ったアクティブな思考ができる人材としての価値を創出できると思った。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

9, 10 ページの At a Glance のページでは 2022 年 3 月期のゴールドウインの株主にとって重要であると思われる情報がわかりやすくまとめられていた点が良かった。

一方で、様々な仕組みや流れを説明する際に図が多く用いられているが、一部の図は文字が少し多くかえって内容が頭に入りにくくなっているのではないかと感じた。